

⑪ 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得(少人数指導による指導) ・知識・技能を活用した、思考力・判断力・表現力等の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実 ・1人1台タブレット端末を活用したICT教育の充実、プログラミング、外国語活動の充実 ・学校図書館を活用した読書指導の充実(なんなる100冊への取り組み) ・家庭学習の充実(なんなる一番星) ・東京ベーシックドリルの活用 	

授業改善の重点	
<ul style="list-style-type: none"> ・発達の段階により、習熟の程度に応じた少人数指導、児童の学ぶ意欲を高める指導を通して、全児童評価規準到達を目指す。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の工夫を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、それらを活用して思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・ワークシートやポートフォリオ、パフォーマンステスト等の多様な視点で、児童の変容を見取り価値付けし、児童の励みとなる評価を通して、一人一人の児童が課題解決に向けて主体的かつ意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・特別支援教育の視点から、各教科における授業のユニバーサルデザイン化を図り、児童が意欲的に取り組むことができる授業環境整備の推進を図る。 	

各教科の指導の重点	<table border="1"> <tr> <th>国語科</th> <th>音楽科</th> </tr> <tr> <td>児童自身が問いをもち、それに応じた学習活動や学習課題に取り組む授業づくりを行う。見通しをもって主体的に学ぶことを通して、確かな言語能力を養う。</td> <td>楽譜を読む活動を繰り返し行うことによって、旋律の動きと強弱の関係、リズムと曲想の関係など音楽的な見方や考え方を育み、思いや意図をもって表現を工夫する力を育成する。</td> </tr> </table>	国語科	音楽科	児童自身が問いをもち、それに応じた学習活動や学習課題に取り組む授業づくりを行う。見通しをもって主体的に学ぶことを通して、確かな言語能力を養う。	楽譜を読む活動を繰り返し行うことによって、旋律の動きと強弱の関係、リズムと曲想の関係など音楽的な見方や考え方を育み、思いや意図をもって表現を工夫する力を育成する。	<table border="1"> <tr> <th>総合的な学習の時間の指導の重点</th> <th>特別の教科 道徳の指導の重点</th> </tr> <tr> <td>計画的に地域の教育力を取り入れ、体験的な学習の充実を図り、主体的に判断し、よりよく問題解決する力を育てる。学校図書館を活用した情報収集能力の向上を目指す。</td> <td>家庭や地域との連携を図り、規範意識や思いやりの心、人権教育、生命尊重の心を、実践場面を通して育む。</td> </tr> <tr> <th>特別活動の指導の重点</th> <th>外国語活動(3・4年)の指導の重点</th> </tr> <tr> <td>児童主体の学級会活動を校内全体で進める。縦割り班活動の充実を図り、温かな人間関係や他者を思いやる心情、社会性を育む。</td> <td>聞くこと、話すことの言語活動を通して、基本の挨拶や定形表現に慣れ、積極的に発話できる力を身に付けさせる。</td> </tr> </table>	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点	計画的に地域の教育力を取り入れ、体験的な学習の充実を図り、主体的に判断し、よりよく問題解決する力を育てる。学校図書館を活用した情報収集能力の向上を目指す。	家庭や地域との連携を図り、規範意識や思いやりの心、人権教育、生命尊重の心を、実践場面を通して育む。	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点	児童主体の学級会活動を校内全体で進める。縦割り班活動の充実を図り、温かな人間関係や他者を思いやる心情、社会性を育む。	聞くこと、話すことの言語活動を通して、基本の挨拶や定形表現に慣れ、積極的に発話できる力を身に付けさせる。
	国語科	音楽科												
	児童自身が問いをもち、それに応じた学習活動や学習課題に取り組む授業づくりを行う。見通しをもって主体的に学ぶことを通して、確かな言語能力を養う。	楽譜を読む活動を繰り返し行うことによって、旋律の動きと強弱の関係、リズムと曲想の関係など音楽的な見方や考え方を育み、思いや意図をもって表現を工夫する力を育成する。												
	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点												
	計画的に地域の教育力を取り入れ、体験的な学習の充実を図り、主体的に判断し、よりよく問題解決する力を育てる。学校図書館を活用した情報収集能力の向上を目指す。	家庭や地域との連携を図り、規範意識や思いやりの心、人権教育、生命尊重の心を、実践場面を通して育む。												
	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点												
児童主体の学級会活動を校内全体で進める。縦割り班活動の充実を図り、温かな人間関係や他者を思いやる心情、社会性を育む。	聞くこと、話すことの言語活動を通して、基本の挨拶や定形表現に慣れ、積極的に発話できる力を身に付けさせる。													
<table border="1"> <tr> <th>社会科</th> <th>図工科</th> </tr> <tr> <td>各種資料等を読み取り、思考ツールを活用することで社会的な見方、考え方を働かせ、よりよい社会の実現のために自分なりの考えをもつことができ、また、実践できる力を育てる。SDGsにも取り組んでいく。</td> <td>作品制作や作品鑑賞などの活動を通して、必要となる基本的知識や技能の自然な定着を図り、自ら作り出す喜びを感じられるようにする。</td> </tr> </table>	社会科	図工科	各種資料等を読み取り、思考ツールを活用することで社会的な見方、考え方を働かせ、よりよい社会の実現のために自分なりの考えをもつことができ、また、実践できる力を育てる。SDGsにも取り組んでいく。	作品制作や作品鑑賞などの活動を通して、必要となる基本的知識や技能の自然な定着を図り、自ら作り出す喜びを感じられるようにする。										
社会科	図工科													
各種資料等を読み取り、思考ツールを活用することで社会的な見方、考え方を働かせ、よりよい社会の実現のために自分なりの考えをもつことができ、また、実践できる力を育てる。SDGsにも取り組んでいく。	作品制作や作品鑑賞などの活動を通して、必要となる基本的知識や技能の自然な定着を図り、自ら作り出す喜びを感じられるようにする。													
<table border="1"> <tr> <th>算数科</th> <th>家庭科</th> </tr> <tr> <td>既習事項との関連や未習事項との系統を図りながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。習熟度の程度に応じた少人数指導を充実させ、思考力・判断力・表現力を高めしていく。</td> <td>日常生活での衣食住や家族に関する経験と関連させながら課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践することを通して、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる。</td> </tr> </table>	算数科	家庭科	既習事項との関連や未習事項との系統を図りながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。習熟度の程度に応じた少人数指導を充実させ、思考力・判断力・表現力を高めしていく。	日常生活での衣食住や家族に関する経験と関連させながら課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践することを通して、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる。										
算数科	家庭科													
既習事項との関連や未習事項との系統を図りながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。習熟度の程度に応じた少人数指導を充実させ、思考力・判断力・表現力を高めしていく。	日常生活での衣食住や家族に関する経験と関連させながら課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践することを通して、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる。													
<table border="1"> <tr> <th>理科</th> <th>体育科</th> </tr> <tr> <td>探究的学習活動を通して、科学的な見方や考え方、問題解決能力を定着させる。また、学習を通して身に着けた知識を、自然や日常生活に当てはめて考えたり、科学的な言葉や概念を使用して説明したりする指導を充実させる。</td> <td>高学年は体力テストの結果を踏まえ、持久力・瞬発力の強化を図る。その際、コーディネーショントレーニングを、体づくり運動や各領域の補助運動として取り入れる。中・低学年はランニング期間やなわ跳び週間を中心に持続的な取組を行い、基礎体力の向上を図る。また、学習の中で気付きや工夫を伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。</td> </tr> </table>	理科	体育科	探究的学習活動を通して、科学的な見方や考え方、問題解決能力を定着させる。また、学習を通して身に着けた知識を、自然や日常生活に当てはめて考えたり、科学的な言葉や概念を使用して説明したりする指導を充実させる。	高学年は体力テストの結果を踏まえ、持久力・瞬発力の強化を図る。その際、コーディネーショントレーニングを、体づくり運動や各領域の補助運動として取り入れる。中・低学年はランニング期間やなわ跳び週間を中心に持続的な取組を行い、基礎体力の向上を図る。また、学習の中で気付きや工夫を伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。										
理科	体育科													
探究的学習活動を通して、科学的な見方や考え方、問題解決能力を定着させる。また、学習を通して身に着けた知識を、自然や日常生活に当てはめて考えたり、科学的な言葉や概念を使用して説明したりする指導を充実させる。	高学年は体力テストの結果を踏まえ、持久力・瞬発力の強化を図る。その際、コーディネーショントレーニングを、体づくり運動や各領域の補助運動として取り入れる。中・低学年はランニング期間やなわ跳び週間を中心に持続的な取組を行い、基礎体力の向上を図る。また、学習の中で気付きや工夫を伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。													
<table border="1"> <tr> <th>生活科</th> <th>外国語科(5・6年生)</th> </tr> <tr> <td>各教科との関連を図りながら、直接体験を中心とした活動の充実を図り、主体的に判断し、問題を解決する力を定着させる。ボランティアコーディネーターと連携を密にし、計画的に地域の教育力を取り入れていく。</td> <td>聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーション能力を高める。</td> </tr> </table>	生活科	外国語科(5・6年生)	各教科との関連を図りながら、直接体験を中心とした活動の充実を図り、主体的に判断し、問題を解決する力を定着させる。ボランティアコーディネーターと連携を密にし、計画的に地域の教育力を取り入れていく。	聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーション能力を高める。										
生活科	外国語科(5・6年生)													
各教科との関連を図りながら、直接体験を中心とした活動の充実を図り、主体的に判断し、問題を解決する力を定着させる。ボランティアコーディネーターと連携を密にし、計画的に地域の教育力を取り入れていく。	聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーション能力を高める。													

<p>本校の授業改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導内容・指導方法の工夫 ・算数科においては、1年生から6年生まで発達段階に応じた習熟度別の少人数指導を行い、個々の実態に応じた学習ができるようにする。 ・教科の特性に応じた言語活動の充実を図り、低学年から聞く・話す活動を計画的に実践定着させる。また、ノートを活用して自分の考えをまとめ、自他の考えを比較・分類することを通して、高学年では討論ができる表現力を身に付けさせる。 ・各教科及び総合的な学習の時間において、個別最適な学びを意識したICTの効果的な活用を行う。特にchromebookを活用した学習活動を通して、自らの考えや意見を効果的に発信する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域との連携の工夫 ・家庭と連携して日常生活や学習態度を振り返り、学力向上に欠かすことのできない意欲や態度を養うことを目指し、学期ごとに1週間の「家庭学習・生活習慣見直しワーク」を実施する。期間中「なんなる一番星」を用いて学校と家庭それぞれの生活を振り返ると共に、「家庭学習のすすめ」を通して、宿題以外の家庭学習も各家庭で推し進めてもらえるように協力を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内における研修 ・昨年度までの校内研究を生かし、特に道徳科の学習を通して「自ら考え、共に学びを深め合う児童の育成」を追究していく。 ・低・中・高それぞれの実態を踏まえ、教材の提示や発問等の指導方法を工夫し、児童が教材を通して道徳的価値を理解し、自分の考えを深めることができるようにしていく。
--	---	---